世界現代史
25

オーストリア スイス 現代史

矢田俊隆
田口晃 著

オーストリア
スイス
現代史

矢田俊隆
田口　晃　著

山川出版社

矢田 俊隆　やだとしたか
1915年生
1938年，東京帝国大学文学部卒業
現在，成城大学法学部教授
主要著書　『近代中欧の自由と民族』吉川弘文館　1966，『東欧史(新版)』(編著)　山川出版社　1977，『ハプスブルク帝国史研究』　岩波書店　1977，『ハンガリー・チェコスロヴァキア現代史』　山川出版社　1978，ほか

田口　晃　たぐちあきら
1944年生
1973年，東京大学法学部卒業
現在，北海道大学法学部助教授
主要論文　「多極共存型デモクラシーの可能性」(『思想』1977年2月号)，「組閣危機と『大連合』――オランダ型平常の政治――」(篠原一編『連合政治』1　岩波書店　1984年所収)

世界現代史25　オーストリア・スイス現代史　定価 2300円

昭和59年8月15日　1版1刷印刷　昭和59年8月25日　1版1刷発行
著者　矢田 俊隆・田口　晃©　発行者　野澤 繁二
印刷所　図書印刷株式会社　製本所　山田製本印刷株式会社
発行所　株式会社　山川出版社　東京都千代田区内神田1-13-13
〒101　振替　東京 2-43993　TEL 東京 03(293)8131(代)
落丁本・乱丁本はお取り替えいたします　0322-0525-8515

まえがき

本書は、中部ヨーロッパの二つの中立国オーストリアとスイスの歴史を、前者については第一次世界大戦後の、後者については一八四八年以後の時代を中心に概観したもので、オーストリアは矢田、スイスは田口が分担執筆している。

はじめに、オーストリアについて述べておきたい。筆者（矢田）は、従来中欧の多民族国家ハプスブルク帝国の歴史を専攻してきた関係で、この国が解体した一九一八年以後の時期については、十分な勉強をしてこなかった。しかし、旧ハプスブルク帝国を構成した三つの主要部分であるオーストリア・ハンガリー・チェコスロヴァキアが、一九一八年に分かれて独立したあとそれぞれどのような道を歩んだかは、かねてから筆者の大きな関心事であり、ぜひ見通しをつけたいと考えていた。そのうちハンガリーとチェコスロヴァキアについては、数年前、本シリーズ第二六巻の執筆を通じて、一応その軌跡を明らかにすることができたが、その後かなりの期間を経て、オーストリアについてもようやく展望をまとめることができ、ほっとした気持である。

ハンガリーとチェコスロヴァキアの場合には、社会主義社会における自由の問題が筆者の心を強くとらえたが、オーストリアの場合には、これら両国とは違う国家の姿が印象的であ

る。隣国ハンガリーとチェコスロヴァキアが第二次世界大戦後東欧共産圏に組み込まれたのに、オーストリアは共産化の運命を免れ、四連合国による十年間の占領から解放されたあと、独自の永世中立国として東西間の橋渡しや国際和平のために積極的な役割をはたし、現在、ヨーロッパでも稀にみる自由と安定を享受している。これははなはだ注目すべき現象であり、このような事態を可能にした原因や条件を、歴史的背景に目を向けながら考えてみたいというのが、本稿執筆のさいの主要な動機であった。

本稿もまた、本来の専門をこえた広範な領域について新しい勉強を重ねながらようやくまとめあげた習作ないし覚書とでもいうべきもので、当然のことながら、叙述にあたっては、巻末にあげた参考文献をはじめ、内外の研究成果にはなはだ多くを負うている。ここに深く謝意を表したい。本稿が不十分な点の少なくないことは、筆者自身よく承知しているが、第一次世界大戦後のオーストリアの歴史を全体として詳しく扱った邦語の文献が皆無に近い現状のもとで、オーストリアに関する読者の関心と理解を高めるうえにいくらかでも役立つことができれば、大きな喜びである。

ところで、スイスといえば、多くの日本人にとって、長いあいだ憧れの国であったようだ。風光明媚なアルプスを背景にする牧歌的な世界、永世中立に象徴される平和な国、直接民主政が実現されている豊かな小国、といったイメージの複合のうえに理想化されてきたからで

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

あろう。

こうしたスイス像もむろん誤りではない。しかし、実情は、当然のことながら、もっと複雑であり、かつ理想像とは相当に異なる面も存在するのである。

われわれの理想像を、蜃気楼の果ての苦い幻滅に終わらせず、真に意味のあるものたらしめるためには、対象の明暗両面についてよくみておくことが必要であるが、そのためには、当該の国の歴史を知ることがもっとも有効な道であろう。とはいえ、筆者（田口）は一介の政治学徒にすぎず、スイス史全般を万遍なく見渡す視野も能力も欠いている。そのため、スイス現代史とはいいながら、結局、政治構造の歴史を、それも不十分な形で描くことで終わってしまった。読者にも、また共著者にも申し訳なく感じている。が、それでも、あまり知られていないスイスの政治とその歴史について、読者諸賢の関心を何程かでも喚起できれば、と念じていることはいるのである。内容上の不備は追々に訂正してゆくよりほかなく、そのためにも大方の卒直なご批判をお願いする次第である。

最後に、本書の刊行にあたっていろいろとお世話になった山川出版社の内藤編集部長、斉藤幸雄・山岸美智子の両氏に、深く感謝する。

一九八四年六月

矢田俊隆
田口晃

目　次

オーストリアとスイス——自然と風土

1　両国をくらべて　3

中欧の小国　両国の歴史

2　オーストリアの自然・風土・文化　5

オーストリアという国　自然環境　民族と宗教

国民性の特徴　経済生活　各州の特色

3　スイスの自然と風土　19

スイスの自然　四つの言語　宗教　カントン　経済と社会

オーストリア

I　ハプスブルク帝国期のオーストリア　29

1　一八世紀以前の概観　30

ハプスブルク家の登場まで　ハプスブルク家の支配

ハプスブルク家の家領拡大と二分　ボヘミア・ハンガリーの領有と宗教紛争　中央集権化の努力と啓蒙的改革
フランス革命とナポレオンの時代
2　一九世紀から第一次世界大戦まで　42
ウィーン体制と一八四八年革命　アウスグライヒと民族問題　一九世紀後半以後の民族問題　第一次世界大戦と帝国の解体
II　第一共和国の成立　53
1　新オーストリアの出発点　54
衝撃と狼狽　独立国家の樹立　困難な諸問題　社会民主党　キリスト教社会党　ドイツ民族主義派
2　オーストリア共和国の発足と社会民主党　66
新国家設立の作業　社会民主党の二面性
3　対外関係とザイペル内閣の出現　72
国際環境　講和条約の得失　外債と国内政治　連合政権の解消と新憲法　ザイペルの登場

4 階級闘争と私的武装団体 82
指導者の性格　階級闘争の雰囲気　私的軍隊の発展
一九二七年の衝突　護国団の展開

Ⅲ 第一共和国の没落と合邦 91

1 世界恐慌と独墺関税同盟問題 92
独墺関税同盟　交渉の不成功

2 ドルフスの独裁政治 95
ドルフスの登場　ドルフスのジレンマ　権威主義的支配への移行　国際政治の影響　護国団と社会民主党

3 一九三四年の内乱 105
内乱の勃発と経過　内乱の結果　新憲法の布告　ドルフスの暗殺

4 独墺合邦への道 113
シューシュニックの立場　状況の変化　独墺協定の締結　イギリスの譲歩　社会民主党の態度　独墺合邦の実現　戦間期オーストリア史の総括

Ⅳ　国家喪失期のオーストリア　131
1　ヒトラー統治下のオーストリア人　132
抵抗運動　解放への準備　ユダヤ人の悲劇　将来の国家形態
2　第二次世界大戦と連合諸国の態度　140
亡命オーストリア人の動き　一九四三年のモスクワ宣言　軍事的分割
Ⅴ　占領下のオーストリア　147
1　レンナー政府と占領諸国　148
政党の設立　臨時政府の樹立　レンナー政府と列強　第一回総選挙とその影響
2　フィグルーシェルフ連合と一九四六年の管理協定　155
国民党と社会党の協力　占領諸国との関係　一九四六年の管理協定
3　共産主義者の活動　162

ソ連の占領統治　戦後の共産党　一九四七年の諸事件
経済援助の問題　一九五〇年の事件
4　国家条約の成立とオーストリアの中立　171
占領の功罪　国家条約交渉の経過　国家条約の成立
ソ連がオーストリアを放棄した理由
Ⅵ　独立と第二共和制の発展　183
1　最後の連立内閣期　184
連合政府とプロポルツ制　経済政策の基礎　ラープ時代　社会党の穏健化　国民党の勢力回復の努力　ハプスブルク家の帰国問題　連合の終了
2　経済政策の形成と「社会的協力」　200
平穏の継続　主要な経済的利益団体　賃金と物価に関する同権委員会
3　共同市場問題　207
オーストリアとEEC　協定の成立　交渉過程の問題点
4　南ティロール紛争　214

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

紛争の背景　紛争の経過

5　単独政権の推移——国民党から社会党へ　221

クラウスの国民党政権　社会党の勝利

6　一九七〇—八〇年代の展望　229

社会党政権の安定　社会党政府の安定条件　社会党の新綱領　国際世界とオーストリア　武装中立　最近の情勢　一九八三年の総選挙と小連合への移行　問題点と今後の展望

スイス

I　スイス連邦の成立まで　253

1　スイス誓約同盟の形成　254

スイス誓約同盟の成立　誓約同盟の特徴　宗教改革と同盟内部の対立　誓約同盟と国際対立　〝絶対主義〟の時代

2　フランス革命とスイスの変動　263

ヘルヴェティア共和国　ナポレオンの調停条約　ナポレオンの没落と旧体制の復活　ウィーン会議と復古の時代　新たな革命の胎動

3　スイス革命の時代　270

一八三〇年の諸革命　同盟協約改正の失敗と反動の強化　チューリヒとルツェルンの政変　アールガウの修道院問題と「分離同盟」の結成　分離同盟戦争

II　スイス連邦の発展　281

1　新生連邦の課題　282

新憲法の制定——新たな妥協　新政府の成立　鉄道建設をめぐる対立　連邦立大学の創立　保守派の巻き返し　フリブール　ベルンの政治変動　ティチーノの対立

2　新連邦国家の外交　293

初期の対外関係　中立政策をめぐる諸問題

3　州における民主化運動の進展と七四年の憲法全面改正　297

新たな改革への始動　各州の運動の共通点　ヴォーの改革　チューリヒ・エッシャー体制の崩壊　その他の州の民主化　連邦の改革へ　七二年改革の失敗の教訓　憲法の改正点

4 自発的比例制の採用と新たな対立 307

国民投票の嵐　自由主義急進派の譲歩　経済の拡大　経済団体の編成　政党の全国統一化　比例代表制の導入

5 第一次世界大戦とゼネスト 317

ドイツ語圏とフランス語圏の対立　経済的困難の増大　労働運動の高揚とオルテン委員会　ゼネストの発生　ゼネストの敗北

Ⅲ 大戦間期のスイス 325

1 第一次世界大戦後の変動 326

政界の再編成　自由民主党の優位　二〇年代の国内対立　保守派の反撃　妥協への動き　半直接民主政の成熟　ふたたび対立のきざし　ミンガーの入閣

2 危機の深化と〝合意〟の成立 334
大恐慌の到来　危機と左翼　右翼の抬頭　憲法全面改正のイニシアティヴ　社会民主党の路線転換　支配層と左翼の妥協——「労使間平和」の成立
3 戦間期外交と第二次世界大戦中のスイス
国際連盟への加入　モッタ外交　第二次世界大戦の勃発　福祉国家への道　全政党政府の成立

Ⅳ 現代のスイス 351
1 「魔法の公式＝呪文」の成立——政治的安定の秘密 352
戦後処理　二つの国民投票と反集権主義の動き　国民投票の洪水　戦後の外交　社会民主党の下野　「魔法の公式＝呪文」の成立　多様な対立　スイスの政党制　半直接民主政　全政党政府の実情　「事前聴取制」と利益団体の活躍　地域の政治構造
2 六〇年以後のスイス 367
ミラージュ事件　スイスの民主政に対する疑問　憲法

全面改正の議論　外国人労働者排斥運動　ジュラ州の分離独立　七〇年代のスイス　国内対立の再発と変化の胎動　八〇年代のスイス　一九八三年選挙

付録

索引　年表　参考文献　オーストリア国民議会の選挙結果　オーストリア歴代内閣一覧　オーストリア歴代大統領一覧　スイス連邦国民議会の選挙結果　スイス連邦歴代政府構成一覧　写真引用一覧　見返し地図

オーストリアとスイス——自然と風土

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com